２０１７．９．２４　大草

読書メモ

71．ユヴァル・ノア・ハラリ　「サピエンス全史（下）」（2016.）

72.　山崎雅弘「日本会議　戦前回帰への情念」（2017）

**＜ユヴァル・ノア・ハラリ　「サピエンス全史（下）」から＞**

この本は、人類７万年の歴史・文明を書いたもの。この本では、幸せ度を人類進化の評価基準において、人類の歴史・文明を考察すべきであるという。

＜5000年前の人間に比べ、現代人の幸福度は向上したか？＞

・進歩主義に異を唱える一部の人達は、人間の能力と幸福度は反比例すると主張する。

・より豊かで健康になれば人はより幸せになるはずである。果たしてそうか？社会的、倫理的、精神的な要因も物質的な要因と同じように幸福に重大な影響を与える。

・物質的に豊かな近代社会に生きる人々は繁栄を謳歌しているにもかかわらず、疎外感や空しさに苛まれて、幸福感のない生活を強いられているのではないだろうか。

・この数十年、心理学者と生物学者は何が人々を真に幸福にするかと科学的に解明するという困難な課題に取り組んでいる。

＜どうやって幸福感を測るか＞

・一般的には、幸福とは、「主観的厚生」とされており、心の中で感じるものである。このため、質問表を対象者に渡し、記入してもらい、その結果を記録・集計することで計測する。

＜幸福感を感じる条件に関する、いくつかの見解＞

１．一定水準までは、富が幸福をもたらす。一定以上の富は、幸福感に影響しない。

２．家族・コミュニティの存在と、それらと良好な関係を持っているかどうか。

３．幸せな結婚生活は、独身又は劣悪な結婚生活より多くの幸福感をもたらす。

４．物質的な改善は、家族やコミュニティの崩壊により相殺された可能性がある。

物質的に豊かになり各人が自分の進路に決定権を持つにつれて、家族やコミュニティと深いかかわりを持てなくなり、孤独感を感じている。

５．幸福は、富や健康、家族、コミュニティなどの客観的条件にさほど影響されない。むしろ、幸福は、客観的条件と主観的期待との相関関係によって決まる。（期待が満足されたかどうかが、幸福感に影響する）

６．生物学者の説。人間を幸せにするのは、たった一つの要因による。幸福は、生化学システム、即ち、脳内電気信号やホルモン（セロトニン、ドーパミン、オキシトシン）に反応しているだけである。但し、感じ方には個人差がある。

７．６．の延長として、生化学システムの中にこそ、真の意味の幸せにする方法がある。

即ち、幸福感を高めるためにはホルモンを増やすことである。

８．６．７．への反論。ある人の人生全体が有意義で価値あるものとみなせるときに幸福感を味わえる。（ダニエル・カーネマン：ノーベル賞受賞者）

９．純粋に科学的視点からすれば、人生には何の意味もない。人類が消滅しても宇宙には何ら影響を与えない。人間は、「自分の人生に意義があると確信し、その確信に幸せを見出すことができる」という存在に過ぎない。

10．幸福は、内なる感情である。生物学者は、外部の富や地位を求めて幸福を得ようとするのではなく、内なる感情に耳を傾けるべきという。

11．仏教の教え。幸福感は永続しない。永続を求めるところに苦が発生する。この永続を望むことから解放されること（超越すること）が悟りである。幸福への鍵は、真の自分を知ることにある。自分が何者であるのかを知ることにおいて、現代人は、古代人や近代人など過去の人々より進歩しているのか？

12．世界の歴史は、その時々に人々が幸福になったのかどうかに全く言及していない。

⇒著者は以下について言及している。

①幸福の歴史に関して私達が理解していることが全て間違っている可能性もある。

②期待が満たされることや快い感情を味わえるかどうかは、たいして重要ではないのかも知れない

③歴史上の全ての出来事は、その出来事の結果、人々が幸福になったのかどうかで評価すべきである。世界の歴史は、この観点より見直される必要がある。

（小生の意見）

①歴史上の出来事の評価を幸福という尺度で測ることは、新しい見方であり評価できる。②しかし、過去の出来事が人々の幸福度向上にどの程度貢献したのか又はしなかったのか、どうやって評価・判断するのか？現代人が、過去の人になりすまして質問に回答するというのであろうか？

③幸福の歴史を考察することに、科学的な意味があるのかどうか。幸福が進歩するということはないのではないか。

④幸福の歴史に科学性（法則性）は、ないのではないか。尤も幸福の歴史を考察しないと結論は得られないが。

⑤幸福の条件とは、生命の安全、病気からの解放、戦争の数量、恐怖の種類・程度、生活の利便性、魂の救済、生き甲斐、家族、コミュニティなどの有無と程度ではないか。整理する必要がある。

⑥生物学者の説は間違っている。ホルモンの量だけで、幸不幸が決まるものではない。

ホルモンを多く投与して幸福感を持ったとしても、それは実体のない虚構の幸福感情に過ぎない。

**＜山崎雅弘「日本会議　戦前回帰への情念」から＞**

この本は、国民会議の成立過程とその主張が批判的に解説されており分かり易い。

＜文芸評論家：新保祐司の原稿＞

「戦後70年の夏を迎えるにあたって」；S20.8.15の敗戦以降、日本人の精神が長きにわたって低迷していたといってよい。日本人の「肉体」は長寿となり賀するべきことには違いないが、「精神」は衰退の一途であった。安倍政権下では「肉体」=経済の改善ではなく、安全保障や教育といった日本人の「精神」の健全化を目指している。この健全化に反対している人々はそろそろ寿命でいなくなる。従って、日本が本来の日本に戻されるのは時間の問題である。（安倍は、精神の衰退から日本を救ってくれる救世主のような存在である）

＜国民会議の主張など＞

①先の戦争や対外政策、国内諸政策も常に正しかった。戦争は、中国やソ連、イギリス、アメリカの責任であり、日本が悪かったというのは自虐史観である。

②戦前の政府指導部の過ちには、目を向けず、一切批判しない。

③戦後、日本は悪くなった。本来の日本の輝きを失った。

④1945年に停止した「国家神道体制」下での時計を動かそうとしている。戦前・戦中・戦後を一つの時間軸に連結させる。

＜日本会議の運動方針案　6項目＞※は特に注意

①皇室を尊ぶ同胞観の涵養※

②新憲法の提唱※

③責任ある政治の実現※（言論統制、軍事力強化など）

④世界平和への貢献

⑤日本の感性を育む教育の創造※

⑥世界との友好親善

日本会議の会員は、以上の方針で活動しており、「国体の本義」「臣民の道」の復活を望んでいる（彼らが取り戻すと言っている内容はこれ）。天照大神の子孫である天皇を国の中心におく国体思想集団である。国体思想とは、億兆一心、聖旨（天皇の考え）を奉体（心に留める）して、よく忠孝の美徳を発揮する。これわが国体の精華とするところである。

＜小生の意見＞

①国民会議の方針は、コンプライアンス上問題となる可能性が大きい。

②戦後、日本人の「精神」が衰退したのは、自己の精神修養、公共に奉仕する心、真の愛国心の３つの項目ではないかと思う。

③戦前のよき日本人の「精神」は取捨選択せねばならず、その前提として先の戦争を総括する必要があると考える。

以上